

會田瑞樹



in
OSAKA

ヴィブラフォン奏者會田瑞樹、大阪初リサイタル!
関西の作曲家とともに音楽の未来を切り拓く

あいおいニッセイ同和損保

ザ・フェニックスホール

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10

梅田新道・東南角 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー内

※お車でのご来場はご遠慮ください。内容はやむを得ない事情により変更することがあります。



2020年
2月15日 土 15:00開演 (14:30開場) **全自由席** **MIZUKI AITA**

TICKET INFORMATION

一般前売 ¥2,000 友の会価格 ¥1,800
一般当日 ¥2,500 友の会価格 ¥2,250
学生(大学生以下) 前売 ¥1,000 当日 ¥1,500

○一般発売: 2019年10月1日 祝

ぴあ.jp/t イープラス <https://eplus.jp>
チケットぴあ Pコード: 162956
ザ・フェニックスホール チケットセンター
☎06-6363-7999 (平日10:00~17:00/土日祝日休業)

會田瑞樹(あいた・みずぎ) ヴィブラフォン奏者會田瑞樹はこれまで200を超える作品の初演を手がけてきた「初演魔」である。近年は自らの声を用いたパフォーマンス、作曲など、その表現範囲は留まる所を知らない。その中でも現代を生きる作曲家との協働は自ら生涯のライフワークと位置付ける。「新しい音楽に出会うことで、昨日まで知らなかった自分にも出会えるかもしれない」という思い故だ。今回は関西出身の作曲家との濃密な協働。仙台出身の會田だが母は京都出身、祖父母は兵庫県姫路市出身と「西」への憧れと共鳴は人一倍と意気込む。2017年には関西一円を拠点に活動するオーケストラ「アンサンブル・フリー(音楽監督: 浅野亮介)」にソリストとして出演、また京都フィルハーモニー室内合奏団への客演など、大阪、関西への思いが一層深まる會田瑞樹。知らない世界に飛び込むきっかけをあなたに。

【主催】會田瑞樹 【共催】あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール
【協賛】あいおいニッセイ同和損保 【助成】NOMURA 野村財団
●問い合わせ先: 會田瑞樹(事務局) ☎080-6008-1297 / mizu.vibraphone@gmail.com



作曲家プロフィール

薮田翔一 Shoichi Yabuta

兵庫県たつの市生まれ。東京音楽大学大学院作曲科修了。第70回ジュネーブ国際音楽コンクール作曲部門優勝。ウィーンコンチェルトハウス100周年作曲賞最優秀作品賞。SORODHA国際作曲コンクール第1位、日本音楽コンクール4年連続第2位、文化庁長官表彰(国際芸術部門)、第26回出光音楽賞など入賞歴多数。2019年にはNHK交響楽団、いずみシンフォニエッタ大阪等からの委嘱作品が初演され、今最も注目されている作曲家の一人である。

佐原詩音 Shion Sahara

1981年、大阪府高槻市生まれ。石川県金沢市の自然で育ち、関西学院大学社会学部社会福祉学科に入学。海外支援などを学びつつ、関西学院大学交響楽団でチェロを弾く。ネパールでの人身売買保護NGO体験を機に作曲を志し、災害復興制度研究所勤務などを経て、東京藝術大学音楽学部作曲科に再進学。これまでに2回の作曲個展を開催。現在、東京にて作編曲家や音楽理論・理数系講師として活動中。

近藤浩平 Kohei Kondo

兵庫県東塚市出身。関西学院大学で音楽学を専攻。2010年ベルリン・ドイツ・オペラ<Klang der Welt Ostasien>作曲コンクール第2位(室内楽)。左手のピアノ作品は舘野泉氏、智内威雄氏による演奏機会が多く、舘野泉氏によりベルリン・フィルハーモニーでも演奏された。「ヴァイオリンと打楽器の為の協奏曲」は、ブダペスト祝祭管弦楽団の日曜コンサートで演奏された。2016年にはアリゾナ州にて5日間わたる Kondo Festival が開催された。「海辺の祈り～震災と原子炉の犠牲者への追悼」は世界各地で再演150回を越える。http://koheikondo.com

野田雅巳 Masami Noda

京都市生まれ。京都市立芸術大学作曲専修卒業。これまで編曲を中心に創作活動をおこなうほか、NHKのラジオドラマ「FMシアター」の音楽なども担当する。2001年、第4回国立劇場作曲コンクールに入選。木琴/マリンバ奏者通崎睦美のCD「ソングス・フロム・エイジア」「1935」などに作品が収録されている。最近の作品は『グリーン』(2本のフルートとピアノ)、『空想舞踊曲集』(声、木琴とピアノ)。愛知淑徳大学非常勤講師。京都新聞カルチャーセンターでも講座をもつ。

中村典子 Noriko Nakamura

滋賀県草津市出身。ノートルダム女学院高等学校、京都市立芸術大学を経て同大学院音楽研究科作曲専攻首席修了。在学中プレーメン芸術大学へセメスター派遣留学。日本、韓国、中国、台湾、メキシコ、アメリカ、ドイツ、フランス、スイス、スペイン、イタリア、オーストリア、スウェーデン、ノルウェー、ロシア、リトアニア、イスラエル各地の音楽祭、歌劇場、放送局、大学、音楽院で作品上演・講演。時之會同人。自身の研究室のensemble clumusicaで3つの国際現代音楽祭を継続開催中[2013-]。現在、京都市立芸術大学音楽学部・同大学院音楽研究科准教授。https://nakamura96.hatenablog.com

坂田直樹 Naoki Sakata

1981年、京都市生まれ。2007年、愛知県立芸術大学、2008年、パリ・エコール・ノルマル音楽院をそれぞれ首席で卒業。13年、パリ国立高等音楽院を修了。2014年、IRCAMにて研修を受ける。フランス著作権協会賞、第36回入野賞、2017年度武満徹作曲賞第1位、第66回尾高賞、第28回芥川作曲賞など受賞多数。これまでにルートヴィヒスブルク音楽祭、武生国際音楽祭、フェスティバル・ミュージカなど著名な音楽祭で作品が取り上げられ、NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、アンサンブル2E2M、アンサンブル・リネア、アンサンブル・ノマドなど、威信のある団体により作品が演奏されている。現在はパリを拠点として、フランス・ミュージック、フランス文化省などから委嘱を受けている。

木下正道 Masamichi Kinoshita

1969年、福井県大野市生まれ。吹奏楽とハードロックの経験の後、東京学芸大学で音楽を学ぶ。大学入学後はフリージャズや集団即興、お笑いバンド活動なども行った。武満徹作曲賞、現音新人賞などに入選。現在は、様々な団体や個人からの委嘱や共同企画による作曲、優れた演奏家の協力のもとでの先鋭的な演奏会の企画、通常とは異なる方法で使用する電気機器による即興演奏、の三つの柱で活動を展開する。ここ数年は年間15曲程度を作曲、初演。武生国際音楽祭「新しい地平」アシスタント。

糺場富美子 Tomiko Kojiba

広島市出身。東京藝術大学作曲科卒業、同大学院修了。米国サンタフェ室内楽音楽祭にレジデンス・コンポーザーとして招待される等、国内外の団体から室内楽、合唱曲、管弦楽曲等の委嘱を受け、作品は国内だけでなくヨーロッパ、米国等で演奏されている。東日本大震災以降「海」を題材に、一連の作品をMusic from Japan、日本作編曲家協会、會田瑞樹氏他からの委嘱で作曲している。昨年、現代日本の作曲家シリーズとしてfontecからオーケストラ作品集がリリースされた。別宮賞、芥川作曲賞受賞。楽譜は全音楽譜出版、カワイ出版、音楽之友社等から出版されている。現在、東京音楽大学教授、東京藝術大学非常勤講師、他。

野村 誠 Makoto Nomura

名古屋生。主な作曲活動に、アリクイやシシオザルと共演する「動物との音楽」、屋根の瓦を演奏する「瓦の音楽」、演劇、ダンス、音楽、マネジメントが交差する「門限ズ」、相撲に音楽を聞く「相撲聞芸術」、だじゃれで音楽を創作する「だじゃれ音楽」、調律師と未来のピアノ奏法を探索する「ピアノの本音」、北斎漫画の音楽を創造する「考古楽」、多様な音楽が共存する「世界のしょうないオーケストラ」、東南アジアの作曲家との原発をめぐる共同作曲「魚も核武装する」など。著書に『即興演奏ってどうやるの』(あおぞら音楽社)、『音楽の未来を作曲する』(晶文社)など。日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクター。

會田瑞樹プロフィール

あいた・みずき: 打楽器奏者。1988年宮城県仙台市生まれ。宮城県仙台第二高等学校を経て武蔵野音楽大学大学院修士課程修了。佐々木祥、星律子、吉原すみれ、神谷百子、有賀誠門、藤本隆文の各氏に師事。学部三年次に日本現代音楽協会主催第九回現代音楽演奏コンクール「競楽IX」において第2位入賞。2016年NHK-BS プレミアム「クラシック倶楽部」において會田の演奏を一時間に渡って特集した「打楽器百花繚乱—Percussion Extraordinaire Mizuki Aita—」全国放送は現代音楽コンテンツの中でも異例の好評を博し再放送が続いている。これまでに3枚のアルバム『with...』(朝日新聞推薦盤)『ヴィブラフォンのあるところ』(レコード芸術特選盤)『五線紙上の恋人』(レコード芸術準特選盤)を発表しいずれも高い評価を得た。

打楽器のための新しいレパートリーの発展を活動の中心に据え、これまでに200作品以上の新作初演を手がけている。2018年は薮田翔一氏の新作協奏曲初演を皮切りに、ISCM(国際現代音楽協会)世界音楽の日・北京大会において国枝春恵作品を中国国家交響楽団と共演し再演、国際交流基金アジアセンター主催事業「Notes」にアーティストとして自作初演を含むインドネシア公演を開催。東京交響楽団との共演による山内雅弘作曲《SPANDA—ヴィブラフォンとオーケストラのための》リトアニアにおいて聖クリストファー室内合奏団との権代敦彦作曲《Sæwol—海から—》両公演の熱狂的初演は記憶に新しい。2019年は斎藤一郎指揮/京都フィルハーモニー室内合奏団定期公演においてピゼー作曲《アルルの女》の朗読役として主人公とその第二役への出演、間宮芳生作曲《カニツツン》の怪演といった自らの声を使った表現をはじめ第10回JFC作曲賞(主催:日本作曲家協議会)へのノミネートを果たすなど、作曲活動へも力を注ぎその領域に垣根はない。Website ▶ <http://mizukiaita.tabigeinin.com>